

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	気管・気管支粘膜病変に対する白色光、LCI(Linked Color Imaging)及びBLI(Blue Light Imaging)の診断能の比較検討試験
研究責任者	出雲 雄大
研究機関名	日本赤十字社医療センター 呼吸器内科
研究目的と意義	気管支鏡検査を施行される患者のうち、気管支粘膜病変を有する症例を対象とし、白色光、LCI及びBLIで記録した画像から鑑別した結果と病理診断結果を照合する。LCI、BLIによる画像評価が診断に有用であるかを検討する。
研究方法	<p>【デザイン】 前向き研究</p> <p>【研究対象者】 2018年2月承認日から2019年2月末日までの間、当院にて気管支鏡検査を施行される患者さんのうち、気管支粘膜病変を有する症例</p> <p>【除外基準】 患者さんまたはご家族が研究への参加を拒否した場合</p> <p>【調査項目】 いずれも気管支粘膜病変に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ●白色光 <ul style="list-style-type: none"> ①粘膜縦走皺 <ul style="list-style-type: none"> ・不明瞭化、消失、断裂の有無 ・肥厚、圧縮強調の有無 ・bridging foldsの有無 ・明瞭化の有無 ②粘膜輪状皺 <ul style="list-style-type: none"> ・不明瞭化、消失の有無 ・強調、明瞭化の有無 ③上皮下血管 <ul style="list-style-type: none"> ・不明瞭化、消失の有無 ・増生、怒張、拡張の有無 ・赤色点 ●LCI 上記①-③の各項目 ●BLI 上記①-③の各項目 ●生検組織 <p>病理組織結果(炎症細胞、異型細胞などの有無。血管病変、軟骨病変などの有無。最終的な病理診断)</p> <p>【解析方法】 上記調査項目をExcelファイルにまとめ、以下の点を解析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Imagingごとの気管支画像所見の特徴 ・Imagingの特徴と、生検病理結果との比較 <p>【被検者の実体験】 一般的な気管支鏡検査の場合と同様の手技が行われる。 即ち、被検者は鎮痛薬、鎮静薬などを用いて気管支鏡検査を施行され、被検者ごとに必要な検査(観察、擦過、生検、洗浄など)を受ける。気管支内腔観察の際に粘膜病変がみられた場合、白色光に加えてLCI及びBLIで画像を観察し、その特徴を評価される。また、同部位の生検が必要と判断された場合、鉗子などを用いた生検処置が行われる。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 呼吸器内科</p> <p>〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22</p> <p>担当者：栗野 暢康、出雲 雄大</p> <p>TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>